建設局ニュース2020　No.170（11・12月号）

東京都建設局

東京のまちづくり

特集1　恩賜上野動物園に「パンダのもり」がオープンしました

特集2　道路功労者表彰

特別特集③　日原街道の災害復旧工事について

恩賜上野動物園「パンダのもり」

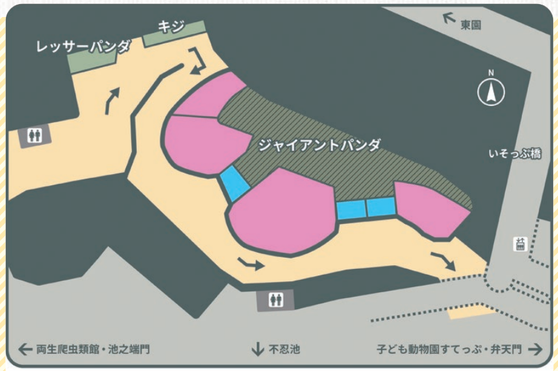
屋内放飼場で過ごすジャイアントパンダ「シンシン」

道路功労者表彰（大戸花の会）

恩賜上野動物園に

「パンダのもり」がオープンしました

令和2年9月、恩賜上野動物園西園にジャイアントパンダとその生息地に暮らす動物の新しい飼育施設「パンダのもり」がオープンしました。ジャイアントパンダのふるさとである中国の四川省をモデルに木や岩、水場を再現し、同じ生息地に暮らす動物の展示施設も併設しています。



名称について

生息地である広い「森」を再現した環境でジャイアントパンダが生き生きと暮らせるように、また、多くの方とともに希少生物であるジャイアントパンダを「守」っていけるように、という2つの意味が込められています。

▼次の3つをコンセプトとして整備を進めました。▼

生息地に近い環境を創出する

パンダ本来の行動を引き出すため、屋外放飼場には最大2メートルの高低差を設け、擬木、休息台などを配置しました。また、屋外放飼場や屋内放飼場、寝室間でのパンダの動線を改善しました。

「パンダのもり」を上から臨む

パンダの繁殖を推進する

今回、非公開施設として母親の子育てを手助けできる保育室を新設しました。また、モニター室ではパンダの行動を24時間観察可能で、検査室では繁殖に必要な性ホルモンなどのチェックを行うことができます。

展示方法を改善する

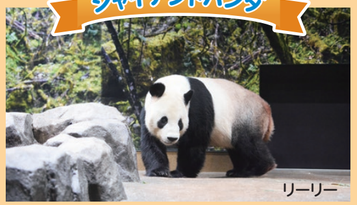
生息地の環境を感じながらパンダの生き生きとした姿が観察できるよう、緑豊かな四川省をモデルに広く豊かな森を再現するとともに、同じ生息地にいるレッサーパンダやキジ類も展示しています。また、パンダを直接観察できるガラス柵の低い屋外放飼場も整備しました。

レッサーパンダ舎（左手前）とキジ舎（右奥）

ガラス柵が低く、起伏を設け擬木等を配した屋外放飼場

「パンダのもり」で展示される動物

ジャイアントパンダ


リーリー

レッサーパンダ

カリン

ルカ

キジ類

キンケイ

※キジの公開状況につきましては、下記HPでお知らせします。

問い合わせ先

施設整備について
東部公園緑地事務所工事課
03-3822-5817

動物飼育等について
東京動物園協会
恩賜上野動物園
03-3828-5171

・入園には事前に整理券の予約が必要です。ご来園に際しては、恩賜上野動物園HPにて最新の情報をご確認くださいますようお願いいたします。
・ジャイアントパンダの観覧方法や撮影につきましては、同HPにてご確認ください。

恩賜上野動物園HP
https://www.tokyo-zoo.net/zoo/ueno/

イキモノのイキな話 120

キリンのヒカリの誕生と成長

恩賜上野動物園　西園飼育展示係　三松豊

2020年2月2日、上野動物園では37年ぶりとなるキリンの赤ちゃん、ヒカリ（メス）が誕生しました。

出産後、母親のリンゴは積極的にヒカリの世話をしようとしませんでした。数日間は様子を見守りましたが変化は見られず、ヒカリの右股関節に異常も見つかったため、人工哺育によって育てていくことにしました。哺乳瓶でミルクを飲むことに慣れていないヒカリは、哺乳瓶を差し出しても自発的に吸い付きません。数人がかりでヒカリの体を支えながらミルクを飲ませる努力を続けたところ、生後4日目に初めて自発的に哺乳瓶に吸い付きました。一度飲み方を覚えてからはスムーズにできるようになり、その後は比較的順調に成長しました。生後1ヵ月には元気に走り回るようになり、枝葉や乾草も少しずつ食べるようになりました。生後3ヵ月から離乳に向けた取組を開始し、一日に与えるミルクの量を徐々に減らして枝葉や乾草の給餌量を増やしたところ、生後約6ヵ月半で離乳しました。

現在、体は大きくなりましたが、おとなのキリンと比べると角の形や枝葉の食べ方などまだまだ未熟な点が見られます。今後の成長とともにそれらがどのように変化するか、おとなとの違いを見比べつつ観察してみてください。

左：哺乳瓶でミルクをのむヒカリ
右：父（ヒナタ）、母（リンゴ）と並ぶヒカリ

動物園の“かお”

上野動物園
ニホンザル

上野動物園で2020年4月から6月にかけて生まれたニホンザルの3頭の子どもたちが、初めての冬を迎えます。